

JT医薬事業の吸収分割および鳥居薬品株式会社に対する 公開買付けに関する合意書の締結について

2025年5月7日

塩野義製薬株式会社 代表取締役会長兼社長CEO 手代木 功



SHIONOGI

SHIONOGIの掲げるVision

新たなプラットフォームでヘルスケアの未来を創り出す

SHIONOGI Group Vision (2030年Vision)

- 2030年にSHIONOGIが成し遂げたいこと -

創薬型製薬企業としての“強み”をさらに進化させ、
異なる強みを持つ他社・他産業から選ばれることで、ヘルスケア領域の新たなプラットフォームを構築する



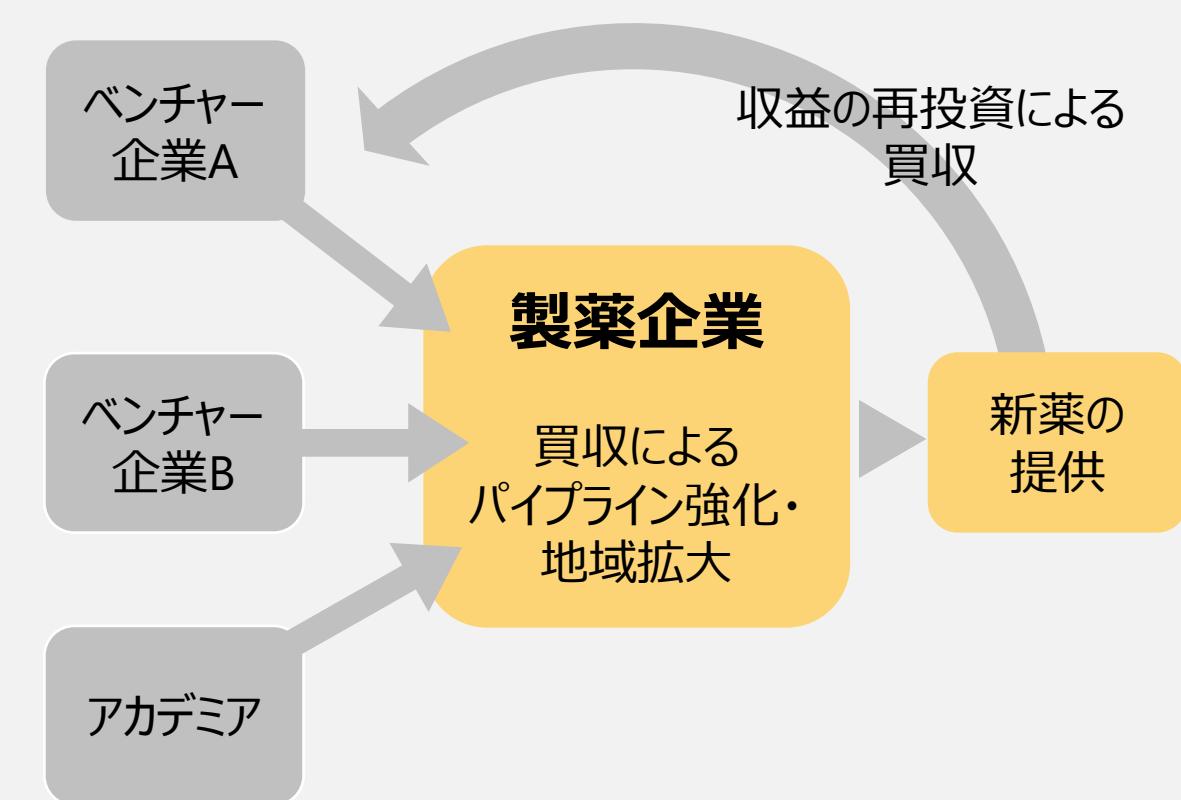
他社とは異なるSHIONOGIの成長戦略

SHIONOGIの追求する成長戦略



“イノベーションを生む優れた研究力”をベースに、
新薬をグローバルに提供

買収による製薬企業の成長戦略



買収によりイノベーションを外部から獲得、
開発を推進し新薬を提供

”製薬の基本＝自社創薬”に立ち返った ビジネスモデルのさらなる進化への挑戦



2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す

事業の安定化

- ・ 感染症事業の安定化
 - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- ・ 流行に左右されない国内製品アセットの獲得
 - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- ・ サプライチェーン体制の強靭化

QOL疾患の製品アセット強化と情報提供の拡大

研究開発体制の強化

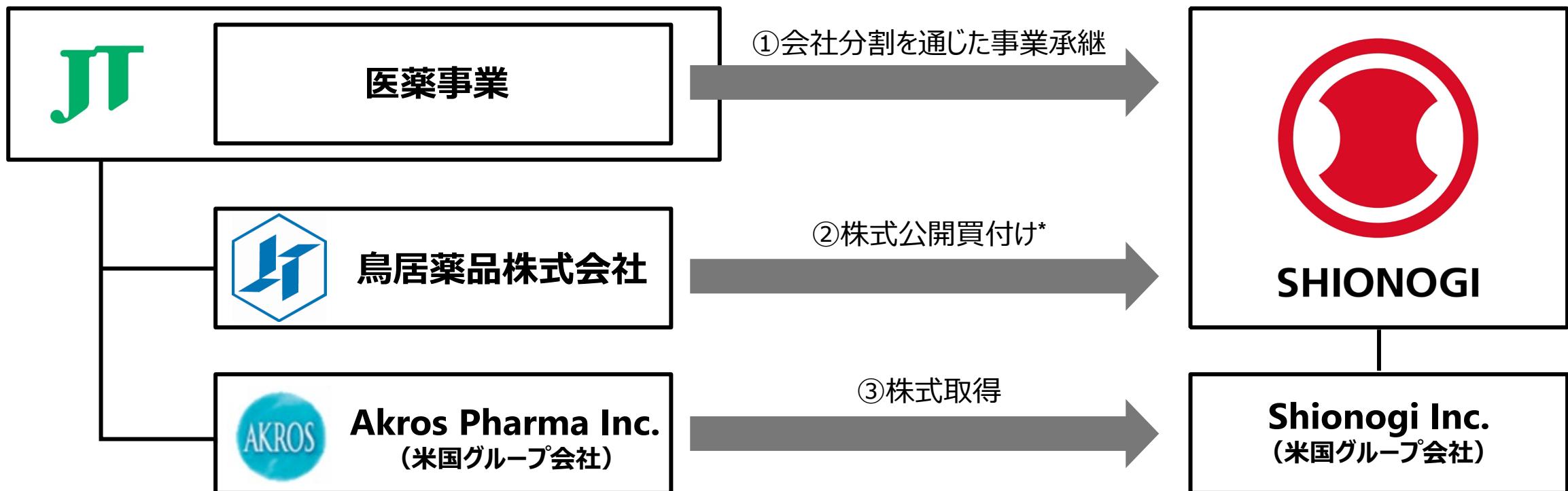
- ・ 研究基盤の強化
- ・ 強みである低分子創薬力の強化
- ・ 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

グローバルに競争力のある自社製品の創出

本件の概略

- ① SHIONOGIによる会社分割を通じた、日本たばこ産業（JT）医薬事業の承継
- ② SHIONOGIによる鳥居薬品に対する株式公開買付け
- ③ Shionogi Inc.によるAkros Pharma Inc.の株式取得

JTグループ医薬事業



* 株式公開買付けに伴う株式併合の効力発生後に、鳥居薬品はJTが所有する鳥居薬品株式を取得するために自己株式取得を実施

JTグループ医薬事業のビジネスモデル

グループが一体となることで、新薬の研究・開発、製造、販売までの強固なバリューチェーンを構築



JT医薬事業

- ・医薬候補品探索～前臨床研究
- ・戦略立案・国内臨床開発
- ・薬事・市販後安全性情報収集
- ・パートナリング・アライアンスマネジメント



鳥居薬品株式会社

- ・パートナリングマネジメント
- ・国内営業
- ・メディカルアフェアーズ
- ・アライアンスマネジメント



東京日本橋

非臨床研究

国内臨床開発

海外早期臨床開発

国内販売

海外後期臨床開発
(アライアンスパートナー)



大阪府高槻市



神奈川県横浜市



Akros Pharma Inc.

- ・海外臨床開発
- ・海外共同研究・新規技術案件探索



米国・ニュージャージー州 プリンストン

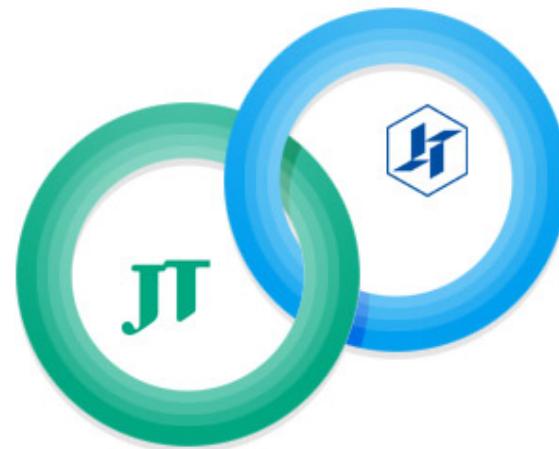
JT医薬事業と鳥居薬品が一体で大きな価値を創造する

継続した価値創造に向け、両者一体となった事業展開が今後も重要

強みのある領域において、研究から販売までを一気通貫で取り組むことで、患者さまのニーズに応える新薬を提供

JT医薬事業の 研究・開発における重点領域

- 免疫・炎症領域
 - 自己免疫、自己炎症、アレルギー疾患
- 中枢領域
 - 神経変性疾患、精神疾患
- 循環器・腎臓・筋領域
 - 循環器疾患、腎疾患、筋疾患

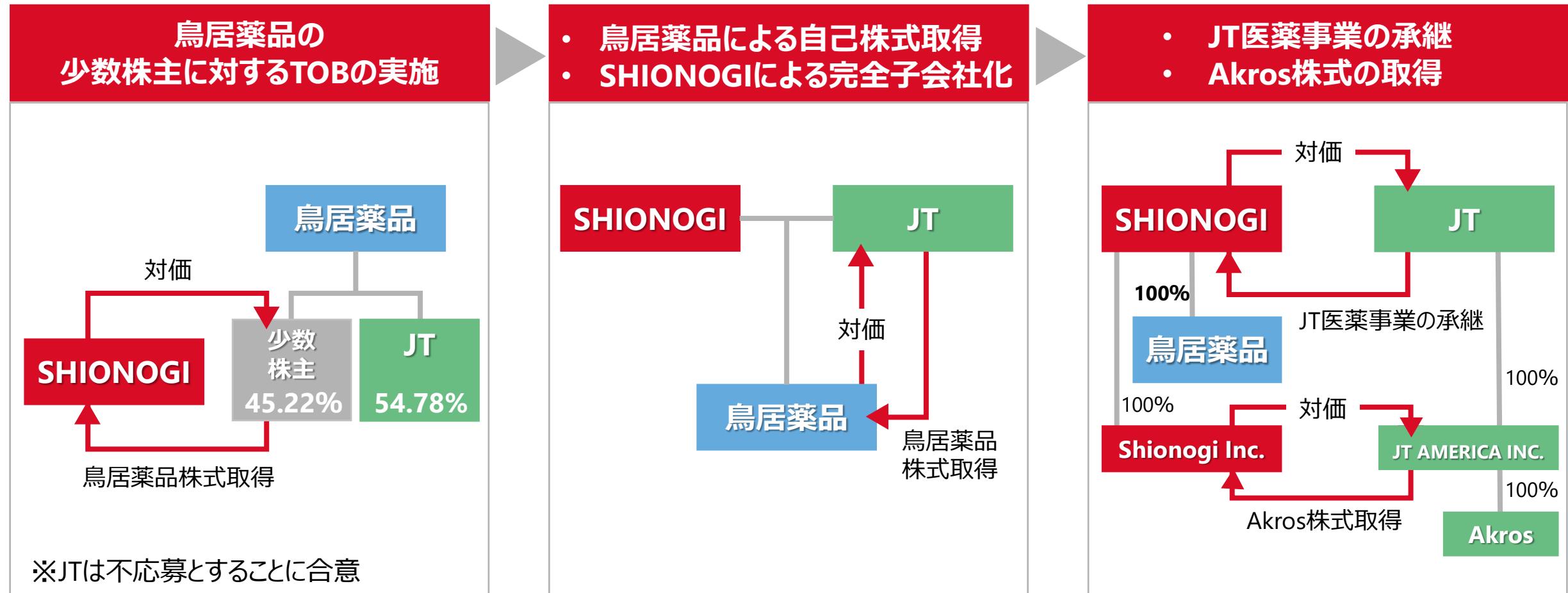


鳥居薬品の 注力領域

- アレルゲン領域
 - 舌下免疫療法の普及
- 皮膚疾患領域
 - JT創出の「コレクチム」を中心に伸長
- 腎・透析領域
 - JT創出の「リオナ」、「エナロイ」の販売

本件のプロセス

鳥居薬品の株式公開買付け成立により、JTグループ医薬事業のすべてをSHIONOGIグループへ



SHIONOGIによる鳥居薬品の公開買付けの主要な買付条件

公開買付者	塩野義製薬株式会社	
対象者	鳥居薬品株式会社	
手法	公開買付け	
買付け等の期間（予定）	2025年5月8日から2025年6月18日まで（30営業日）	
決済開始日（予定）	2025年6月25日	
買付け等の価格	普通株式1株につき、金6,350円	
プレミアム	2025年5月2日終値（5,230円）	：約21.41%
	過去1ヶ月間の終値平均株価（4,432円）	：約43.28%
	過去3ヶ月間の終値平均株価（4,482円）	：約41.68%
	過去6ヶ月間の終値平均株価（4,559円）	：約39.28%
買付予定数の下限	3,342,000株	
買付予定数の上限	なし	
買付代金の総額	約807億円（自己資金）	
公開買付代理人	SMBC日興証券株式会社	

本件取引公表後の取り組み

今後の予定

- 2025年9月 : 株式併合および自己株式取得の効力発生 ⇒ 鳥居薬品は当社の完全子会社へ
- 2025年12月 : 会社分割の効力発生 ⇒
- JT医薬事業は当社に吸収
 - AkrosはShionogi Inc.の完全子会社へ
- 上記それぞれの効力発生時点での取引関係や従業員の業務、職場、働き方等の変更は実施しない

2025年							
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 公開買付期間				 鳥居薬品 完全子会社化			 • JT医薬事業の吸収 • Akrosの株式譲受
本件公表							

2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す

事業の安定化

- ・ 感染症事業の安定化
 - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- ・ 流行に影響を受けない国内製品アセットの獲得
 - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- ・ サプライチェーン体制の強靭化

QOL疾患の製品アセット強化と情報提供の拡大

研究開発体制の強化

- ・ 研究基盤の強化
- ・ 強みである低分子創薬力の強化
- ・ 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

グローバルに競争力のある自社製品の創出

事業の安定化 - 鳥居薬品の強み -

鳥居薬品は「アレルゲン領域」「皮膚疾患領域」を成長ドライバーとし、着実に成長

フランチャイズ領域

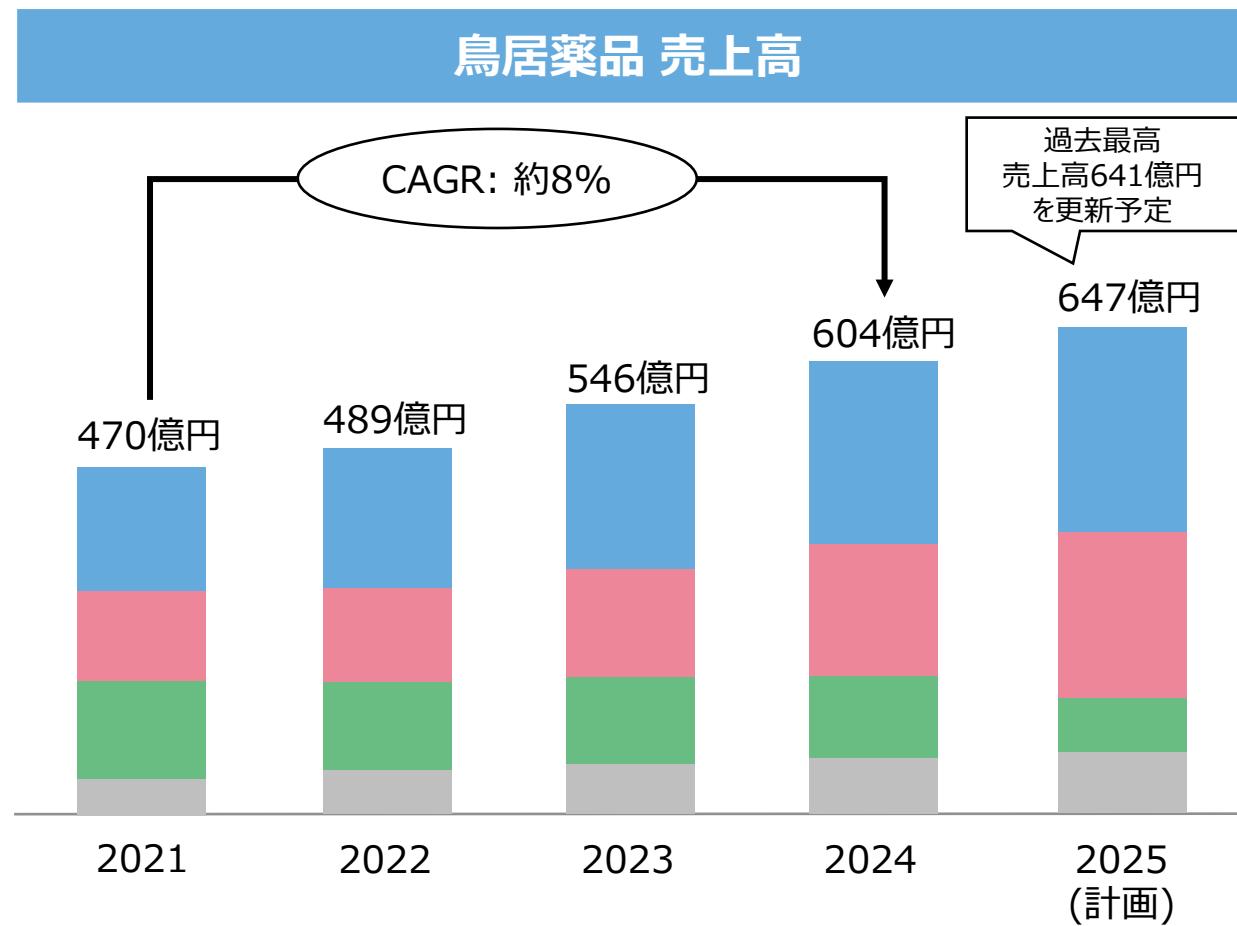
アレルゲン領域

- 過去数年間に渡り、力強い成長を実現
- 2025年7月以降、スギ花粉舌下錠「シダキュア」の増産設備竣工により、更なる増産を計画
- 2025年内にイネ科花粉舌下錠の臨床試験を開始予定

皮膚疾患領域

- 「コレクチム」等の伸長により、確実な成長を実現
- 2024年10月に発売した「ブイタマー」の浸透により、今後更なる売上高の伸長を期待
- 2024年12月に伝染性軟属腫を適応症とした製品の国内製造販売申請

腎・透析領域



異なる強みの融合による成長

情報提供活動を拡大し、患者さまのニーズに応える両社製品を提供

SHIONOGI

感染症領域での高いプレゼンス

ゾコーバ
COVID-19

インフルエンザファミリー

営業活動における
シナジー効果

- 異なる領域の強みを統合し、情報提供範囲を拡大
- 製品群が広がることで、よりニーズに応じた情報提供を実現

鳥居薬品

アレルゲン領域、皮膚疾患領域での
高いプレゼンス

アレルゲン免疫療法

コレクチム
アトピー性皮膚炎

両社の注力すべき新薬の上市

ブイタマー

アトピー性皮膚炎/尋常性乾癬

2024年10月発売

クービビック

不眠症

2024年12月発売

ズラノロン

うつ病

2025年度承認予定

SHIONOGIの保有する自社生産体制の活用

SHIONOGIグループの自社生産設備の活用により、安定供給・原価低減へ貢献

研究

開発

生産

販売

SHIONOGIの保有する自社工場



摂津工場



金ヶ崎工場



尼崎事業所



伊丹工場



徳島工場

JTグループ医薬事業の製品についても、増産・グローバルサプライチェーン構築などの、
フレキシブルな自社生産体制の確立が可能

2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す

事業の安定化

- ・ 感染症事業の安定化
 - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- ・ 流行に左右されない国内製品アセットの獲得
 - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- ・ サプライチェーン体制の強靭化

QOL疾患の販売アセット強化と情報提供の拡大

研究開発体制の強化

- ・ 研究基盤の強化
- ・ 強みである低分子創薬力の強化
- ・ 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

グローバルに競争力のある自社製品の創出

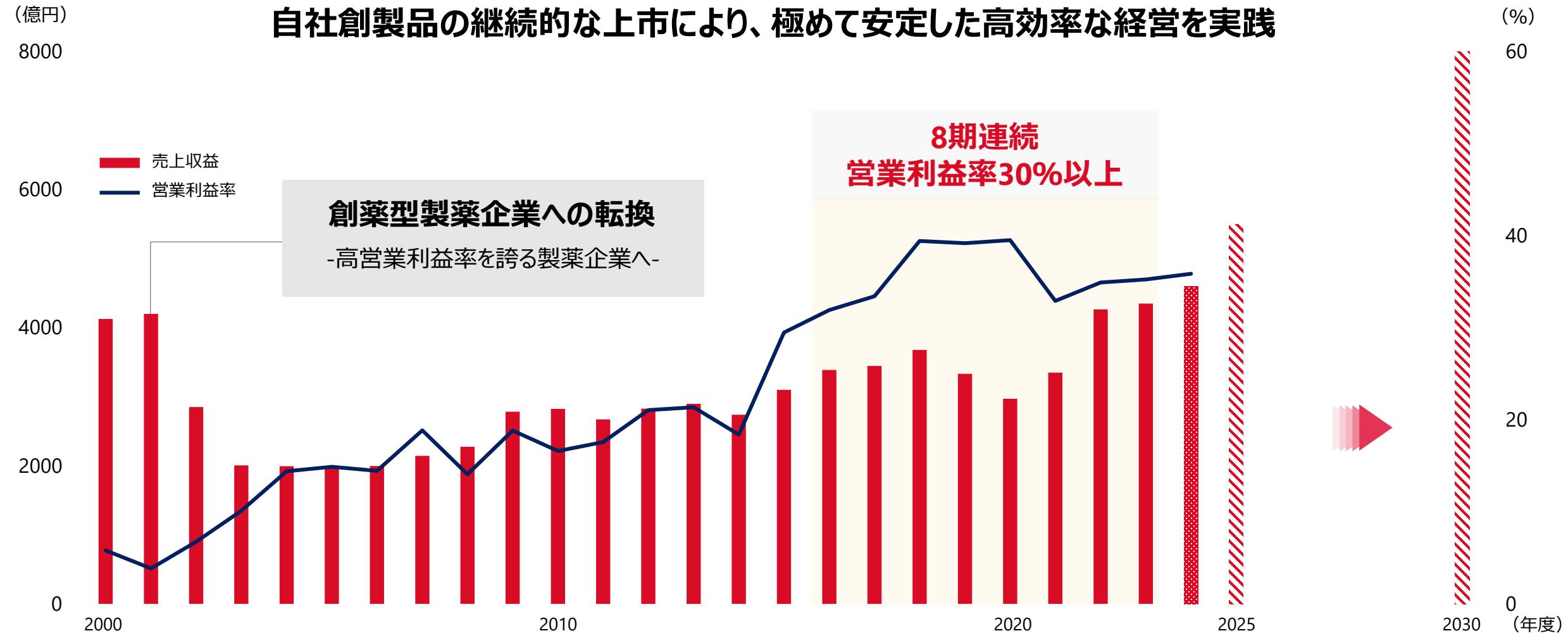
研究開発体制の強化により目指す姿

日本発の革新的な医薬品を 世界に届けるリーディング・カンパニーの誕生



“グローバルでNo.1の低分子創薬力”を有する製薬企業となり、
世界中の患者さまに、必要とされる薬をお届けし続けるというSHIONOGIのミッションを果たす

自社創製品によるSHIONOGIの成長

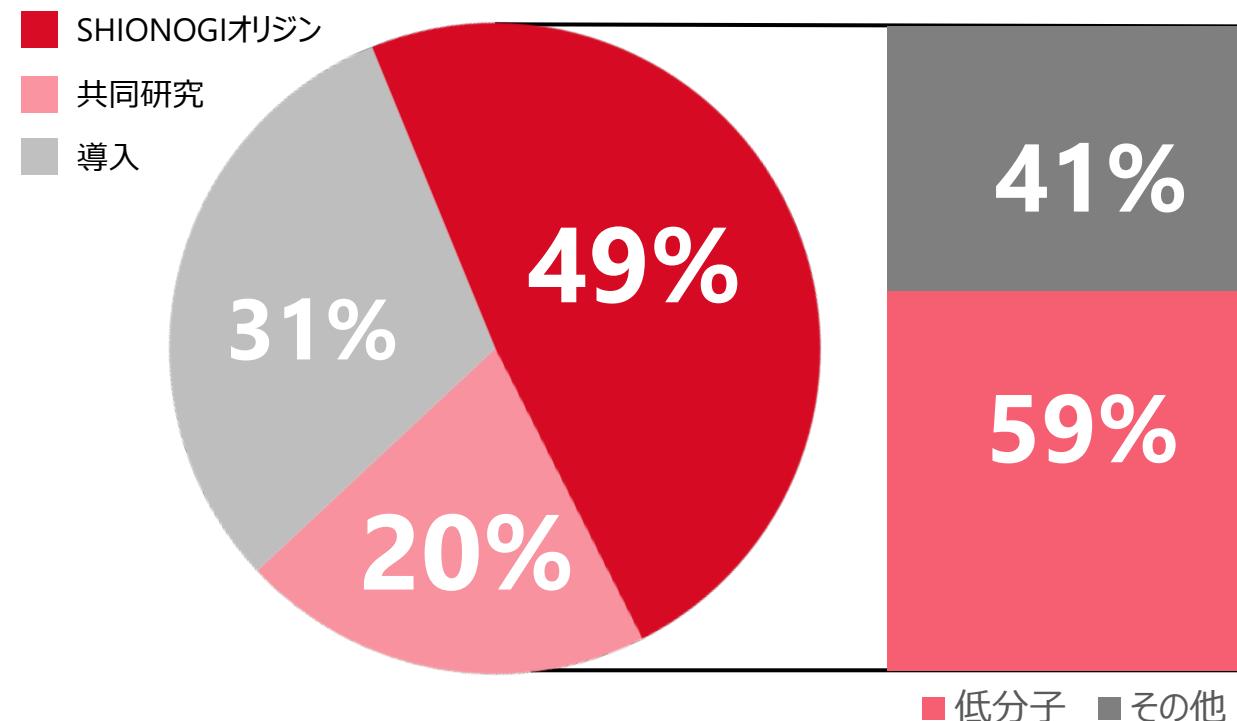


SHIONOGIの目指す方向性

低分子創薬を中心に、自社創薬にこだわり患者さまへの貢献を果たす

自社創薬比率* **69%**

そのうち、約60%が低分子医薬品



低分子医薬品の強み

-  **豊富な創薬ターゲット**
– 細胞内ターゲットへのアプローチ
-  **高い利便性**
– 経口投与が可能
-  **優れた経済性**
– アフォーダブルな価格設定

SHIONOGIの低分子創薬における強み

チームそれぞれの技術力の高さと連携により、感染症領域での強みを確立

チーム連携による創薬研究サイクル

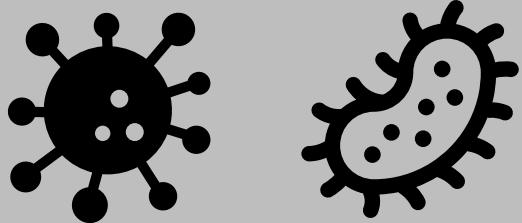


「ウイルス研究」および「低分子化合物デザイン」のノウハウを活かしたSHIONOGI独自の「創薬プラットフォーム」



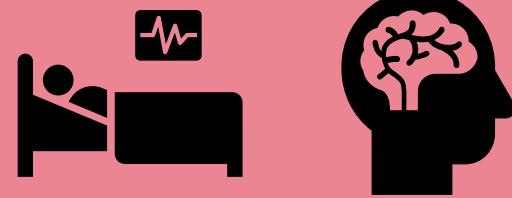
低分子創薬の強みを"感染症"から"QOL疾患"へ拡大

感染症領域での
低分子創薬力



確立された
SHIONOGI独自の強み

社会的影響度の高い
QOL疾患領域での
高い研究開発力



強化すべきポイント

研究開発体制の強化 - JT医薬事業の強み -

低分子創薬で優れた創薬実績と創薬基盤を有する



JT医薬事業の研究開発の強み・特徴

低分子創薬に特化

- 経験豊富なメディシナルケミスト^{*1}

QOL疾患との親和性高い重点領域

- 免疫・炎症領域
- 循環器・腎臓・筋
- 中枢領域

優れた創薬基盤技術

- キナーゼ創薬^{*2} のノウハウ
- AI創薬のプラットフォーム
- ranslational research^{*3} の実践

^{*1} 主に新規化合物の設計、合成、評価を行う研究者 ^{*2} 細胞機能を調節する酵素(キナーゼ)を標的とする創薬

^{*3} 基礎研究の成果を臨床応用へ橋渡しし、新薬開発の効率化と成功率向上を目指す研究

グローバルNo.1の低分子創薬を実現

グローバルに医薬品を届けるための研究体制を強化



感染症領域での 低分子創薬力の強化・ 生産性の向上



- **AI創薬プラットフォームの活用**
 - 研究開発のスピードアップを実現
- **メディシナルケミストの経験・ノウハウを融合**
 - 優れたパイプラインを継続して創出

社会的影響度の高い QOL疾患領域での 有望なパイプライン創出



- **創薬基盤技術の活用**
 - 有望なターゲットを探索
- **臨床を見据えた研究力の強化**
 - 成功確率の高いパイプラインの創出

低分子創薬力を磨き上げ、注力領域での継続した開発パイプラインを創出

グローバルカンパニーへの変革を加速

SHIONOGIがJTグループ医薬事業を一体で獲得し、世界中のアンメットニーズを抱える患者さまに貢献

グローバルNo.1の低分子創薬力

- SHIONOGIの低分子を製品に仕上げる力
- JT医薬事業の創薬基盤力



鳥居薬品株式会社

- 豊富な国内製品アセット
- SHIONOGIの販売網を活用したグローバル展開

自社販売の拡大と生産性向上



自社創製品のグローバル開発

- SHIONOGIのグローバル開発の経験・ノウハウ
- 両者開発品をグローバルに自社展開



- SHIONOGIの自社生産施設の活用
 - 安定供給の確保
 - 原価低減への寄与

柔軟な生産体制